

(3) 交通まちづくり部会からの説明

●NPO高知市民会議と交通まちづくり部会

平成10年、高知市が設置を進めていた市民活動サポートセンターは、様々な分野で活動している人たちを組織化し、その運営を担っていく方向で進められていました。その年の9月末に起きた高知豪雨でこのネットワークが被災者の生活復旧に生かされ、被災者とボランティアを繋ぐ大きな役割を果たしました。このような経験から、より豊かな地域社会を目指すにはボランティアや市民活動を支援していくことが必要との思いを強くし、翌11年に特定非営利活動法人NPO高知市民会議が設立されました。そして4月には、高知市が設置した高知市市民活動サポートセンターの運営を担うようになり、平成18年度より指定管理者の指定を受けました。高知市市民活動サポートセンターは高知市が設置する施設で、市民活動に関する情報収集・資料提供・相談・アドバイス、広報・啓発活動の他、会議室や機器の利用提供などを行っています。人材育成、調査・研究、ファンドの企画・運営、市民団体の連携・交流に関する支援等も実施し、年間を通して様々な事業を展開しており、多くの市民が参加しています。昨年9月末に実施した「土佐っ子タウン」では、高校生・大学生を含めてスタッフが160名、参加した子供が約300名という規模になりました。また、市民をまちづくりの主体者と考え、参加するきっかけを提供しています。「まちづくりトーク cafe」では自由に語り合う場を設け、平成13年の交通に関するテーマの討議を経て、市民を活動主体とした公共交通部会が平成14年に結成されました。以後、NPO高知市民会議の自主事業として活動することになりました。平成20年には交通まちづくり部会と改名し、環境・福祉・まちづくりの観点から交通を通して様々な啓発事業等を実施しており、平成21年には四国運輸局から表彰されました。